

## 【河川水のアクリルアミドに関する指標値等】

## 1 国が定める環境基準等

- ・アクリルアミドは、水環境を経由して、人の健康や生態系に有害な影響を与えるおそれ（水環境リスク）が比較的大きくない、又は不明であるが、**知見の集積が必要である物質「要調査項目」**に選定されている。（環境基準は設定されていない。）
- ・水質汚濁防止法に基づく**排水基準は設定されていない。**

## 2 設定されている指標値等

- (1) 「飲料水水質ガイドライン値<sup>※1</sup> (WHO)」 500ng/L  
 ※1 体重60kgの人が1日2Lを一生涯飲用しても影響が出ない量として設定されている。
- (2) 「水道水の要検討項目<sup>※2</sup>の目標値(厚生労働省)」 500ng/L  
 ※2 毒性評価が定まらないことや、浄水中の存在量が不明等の理由から水質基準項目、水質管理目標設定項目に分類できない項目
- (3) 「水生生物への影響が表れないと予測される濃度<sup>※3</sup> (環境省)」 41,000ng/L  
 ※3 「化学物質の環境リスク初期評価」(環境省平成14年)

## &lt;参考&gt;

「平成19年度化学物質環境実態調査」(環境省)を元に山梨県作成

項目	検出数/地点	最大値	最低値	定量(検出)下限
水質 (ng/L)	13/48	49	n d	5.9 (2.3)
底質 (ng/g-dry)	40/64	1.9	n d	0.2 (0.079)

注：n dは検出下限値未満

「食品中の含有量」(平成16～28年度農林水産省調査)を元に山梨県作成

食品名	試料数	中央値 (ng/g)	最大値 (ng/g)
ポテトスナック	120	610	4,600
インスタントコーヒー	60	560 <sup>*</sup>	870
炒め野菜	180	23	620

注：日本では、食品に含まれているアクリルアミドモノマーについて、食品衛生法等に基づく基準値等は設けられていない。

※インスタントコーヒー2gを140mLの湯に溶かした場合の濃度は約8,000ng/L

## &lt;単位&gt;

- ・1mg (ミリグラム) = 1000分の1グラム
- ・1 $\mu$ g (マイクログラム) = 100万分の1グラム
- ・1ng (ナノグラム) = 10億分の1グラム

## 3 河川水の水道利用について

県内富士川本川の表流水を水道水源として利用している自治体はない。